

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2073300176		
法人名	有限会社 あぐり		
事業所名	ゆうあいの家 桜		
所在地	長野県下高井郡山ノ内町戸狩376-3		
自己評価作成日	平成21年7月21日	評価結果市町村受理日	平成22年11月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>運営理念や入居者個々の思いや力を、職員が意識できるように企画をして様々な活動に取り組んでいる。 (特別活動・地域交流活動)</p> <p>・小学生との相互利点交流。 ・隣接の宅老所の利用者や職員との交流。 ・地域の事業所として、その地区に定期的なお便りの発行。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域といってもすぐ隣には家がない。畑がホームの前に広がり山々が遠くに見え、気持ちが和らぐ環境である。さらに馴染みの関係を大切に、地域の小学生との交流が定期的になされ、ホームの人達が出かける授業参観日があり、ホームの人たちが過ごす楽しみの場となっている。敬老会の参加や地域の人たちがホームに招かれる。家族会も年に2回開き、なるべく多くの人たちが来れるように工夫をしている。家族と一緒に食事会に出掛けたり、「老いても自分らしく毎日を楽しみ暮らしたい」という運営理念から介護理念が展開され、個々を大切にきた温泉場で生活してきた利用者の昔ながらの生活様式を大事にする支援をしている。また、職員も大切にされ、その人の事情も考慮した勤務体制でゆとりを持ちつつ利用者に対応が出来るように工夫している。</p>
--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2073300176&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2073300176&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成21年8月7日		

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が基になり、ホーム内の介護はもちろん地域に向けての働きかけ、交流等の活動へと広がっていくことを職員全員でいつも確認しあうことが大切であり、会議等にて話し合っている。	運営理念として「老いても自分らしく毎日を楽しく暮らしたい」という生活信条から展開した介護理念を基本に、一人ひとりを尊重し地域の方々が気軽に立ち寄れる、居心地よい家庭作りを目指している。理念をホーム内に掲げ、課題など生じたときは理念に戻って考え、実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお天馬に出たり、散歩時にはゴミ拾いをしたり会う人には挨拶をしたり、地区の方を招いて楽しみ会を開いたりしている。	地域の自治会に加入し、定期的にお天馬と呼ばれる川さらいや敬老会、小学校の運動会、月1回のいきいきサロン、小学校の子供たちとの交流の機会を持っている。地区の方たちをホームに招くなど、ホーム内には子供たちが描いた利用者の似顔絵が自室入口に掲げられ、交流の深さが垣間見られる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の方々には個別に相談等を受ける。小学生とは交流を通じ、相互に理解を深めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況の報告と相談、ホーム内の事業運営の報告と相談等を通じ、理解や支援を得て、さらに事業へと反映している。	2ヶ月ごとに開催している。利用者の家族は遠くにおり、一人暮らしで入居している利用者も多い。地元の代表として家族に運営推進会議に出席していただき、会議録の報告を定期的に行っている。家族会も年2回を開いておりアンケートや意見を聞く体制作りにも努めている。今後、家族会にあわせ、推進会議を開催する検討もしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者個々の介護や現状の報告や相談などさせてもらっている。 包括支援センターで開催の、認知症介護教室の講師として招かれたりしている。	地域包括支援センター開催の認知症介護教室への講師として参加し、ケアや認知症の理解を伝えながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の行為は理解しているが、現在夜間だけ、ベッド柵、ミトンを使用している人がいます。	骨折をして退院した利用者には転倒の危険があり、見守りや安心した環境で生活できるように日々工夫し、転倒防止のための対策を家族と共に考え、拘束せず穏やかにその人らしく生活できる方法を毎日苦慮している。ミトン、ベッド柵を一時的な緊急での対応と考え、日々検討している。	

ゆうあいの家桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や会議等で学習し、防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、制度の理解に努めている。入居者の制度活用への支援には至っていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書にて説明の上、疑問に答え、十分に話を互いに出来るように努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便りで意見・要望を問いかけている。面会時や家族交流会では、話の中から意見・要望をくみとり、個々の介護やホーム運営に反映させるよう努めている。	毎月発行している写真付きのホーム便りに意見・要望欄を作り意見を求めている。家族会もなるべく多くの家族と面談する機会を作るために年2回開催し、家族の意見などの表出が出来る工夫をしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議時に、ホーム運営の大切なことや、その他職員が働きやすいように、話し合ったり意見を聞くようにしている。	管理者は年に何回か職員との面談時間を作り、意見や提案を聞く機会を作っている。また、職員からも働きやすい意見の言いやすい職場である。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の、資格取得への支援を行っている。職員が、働き続けやすいように勤務希望を取り入れている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外の、研修への参加を支援している。		

ゆうあいの家桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームへの見学や、同業事業者との研修を通してサービス向上に活かしている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期には特に安心できる関係作りのため、本人の気持ちを受け止められるよう、出来るだけ担当の職員がかかわるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話は充分時間をとり聴くようにしている。 家族の今までの思いや苦勞、本人に対する想いなど受け入れ、安心して話せる関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の話や家族の話から、安心できる状態作りのため、どのような支援を優先していくか検討しています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何事も入居者に教えてもらうようにしています。 そのようにするために、調理や活動などに多く取り入れています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日常状況を面会時や電話、手紙などで伝え、家族と相談したりお願いしたりしながら、職員と家族とで本人への支援が出来るよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人などと面会の連絡をしたり、本人の懐かしい場所へは行けるように外出や活動などに取り入れている。	利用者の住んでいた場所に皆と出かけ、利用者から案内をしてもらうことで、いきいきとした時間を過ごす。地域で定期的に行われる「いきいきサロン」に参加され、地域の人と話をしたり、馴染みの人の家で半日過ごしたり、ホームに来てもらい一緒に過ごす時間を作っている。	

ゆうあいの家桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性、年齢、生活暦等から、より良い関係が作れるように、食事の席、家事分担、入浴などの場面で支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も自由に来て頂けるよう、話したり行事等には声掛けをしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の本人の言葉や行動を記録し、会議での検討を通し、職員のいろいろな受け止め方から把握している。また、家族からは入居後も状況を伝え不明なことを聞かせてもらう等で把握している。	一人ひとりの思いを受け止め、利用者が何を考え何をしようとしているのかを、それぞれの職員がセンター方式などを利用しながら把握し、会議の中で検討し利用者本位の生活が送れるように支援している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、在宅時のケアマネージャー、包括支援センター職員等から、情報を得て把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様々な場面での観察をし、それを記録し職員全員で検討し把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の本人の言葉や行動から本人の思いや現状把握に努め、家族との話や相談等を通し、職員会議で検討し介護計画を作成。介護実践後は、評価し再計画へつなげている。	3ヶ月ごとに定期的に介護計画の見直しをしている。家族と面会時には家族からの意見を聞き、職員とともにホームで老いても自分らしく楽しく生活できるという信条に基づき、介護計画を立て見直しが行なわれている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	場面状況を正確に記録するよう努め、職員が同じように情報把握が出来る様にし、それに基づき介護計画やその実践につなげている。		

ゆうあいの家桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望にはなるべく対応できるように努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の一般高齢者事業への参加。 小学生との交流、ボランティアの受け入れ、各種サークルの訪問受け入れ、交番巡査の訪問受け入れなど、できる限り支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者個々の主治医を大切に、継続して適切な医療を受けられる様にしている。	基本的には、入所前の主治医がかかりつけ医となっている。本人の身体状況により、往診できる医師に変更することもあるが、家族が遠くに住んでいる利用者は、職員が付き添い適切な医療を受けられるようにしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が、異常の早期発見のための各個人の症状などを伝え、職員全員で観察や報告、相談をし合っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から退院まで、家族と共に病院からの情報を受け取り、入院前の状況を伝えている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合い主治医と相談し、方針決定後は職員全員で共有し対応している。	入居時から終末期について家族に確認はしている。ターミナル指針も作られており、その都度医師と家族を含め話し合いをしながら、方針を決定し職員全員で共有し、今まで3人の看取りを行った。	今後、ターミナル指針に沿って、家族の同意書などについても検討される事が望ましい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームのマニュアルにより確認したり、定期的ではないが、内外の講師により訓練を実施している。		

ゆうあいの家桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内だけや、消防署や消防団を含めての訓練を実施している。 地域の方への協力依頼は検討中です。	年に2回の災害訓練をしている。夜間を想定し消防署や消防団を含め実施した。土地柄地域の支援には周りに人家がないので限界があるが、すぐ近くの温泉に協力を得て避難場所などにもお願いしている。避難場所として協力依頼している温泉に、災害時の備蓄の準備も、協力していただけるように働きかけていく予定である。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人づつ違う個性の人格であることを、常に意識するように、人生の歩み、現状などを検討し合ったり、それに基づき声掛けの仕方や、家事場面ではその人が出来る様に設定したり等対応している。	介護理念にもある様に、一人ひとりの人生、一人ひとりの意思、一人ひとりの体調、一人ひとりが仲良く、一人ひとりの家族、地域交流を大切に、声かけや個々尊重した対応を行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々が、自分の考えや意見が出せるような声掛けや問いかけをしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事・その他について、その方がやりたい事やできる事は、本人のできる時間で急がせないよう、失敗しないような対応に努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みの身だしなみや、服装(形、色)などに気を配っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶の時間に食べたい物を聞いたり、今の季節の旬のものを考えたり、畑から野菜を採ってきたり等、食事への楽しみ感を膨らませながら、準備から片付けまで一緒に行っている。	ホームの目の前には畑が広がっており、季節の野菜作りもされ、旬の野菜を採ってきて好みのものを作り、一緒に片付けなど行いながら楽しい食卓を囲んでいた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事カロリー、栄養バランスなどの確認を栄養士に依頼し指導を受けている。また、水分量は確認し記録している。		

ゆうあいの家桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の歯磨きへの支援や、夜間は義歯を洗浄剤液に浸しておく。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄自立度に応じ、時間毎の誘導やポータブルトイレの使用、昼と夜とのパッド等の使い分けをしている。 紙パンツ、パッドから普通のパンツになれた方もいる。	一人ひとりの排泄チェックを皆で共有し合い、声かけ誘導の方法を考えトイレに行ける工夫をしている。紙パンツから普通のパンツに切り替わった利用者もいる。排泄の大切さを理解し対応している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者個々の排便状態を把握し、水分量を加減し野菜を多めにとるような対応や、散歩も速さや距離を加減している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望にあわせ、時々近くの温泉を利用したり、ホームでの入浴も本人の希望や体調にあわせ、入浴時間や一緒に入る他者の組み合わせや入浴方法など、いろいろな角度から支援している。	温泉という地域柄、利用者は、日中に入浴できる醍醐味を感じており、満足そうに風呂から上って笑顔が見られた。週1回は近くの温泉に皆で入浴に行く時間もある。ゆったりとした温泉場らしい雰囲気が入浴が楽しめる工夫がされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠できるよう、日中は家事・畑仕事等のことをしていただいている。 季節に合わせ、寝具・寝衣等の調整をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬説明書を利用し、職員全員が分かるようにしている。 個々への配薬と内服が確実に出来るよう管理している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意とすることで、その方の力を発揮していただけるよう見極め、設定やお願いをしている。 行きたい所への外出や地域の行事への参加なども取り入れている。		



ゆうあいの家桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食、食事を持っての外出、地域の方達との外出など、地域の方やボランティアの方々の力をお借りして実施している。	傾聴ボランティアが月1回は訪問し、一緒に外出したり、外食に出かけたり、外出支援はとて多く持っている。一人ひとりの希望を把握し慣れ親しんだ場所に出かける。家族と共に外出し食事を外で楽しんだり、近くの温泉に毎週入浴に出かけるなど日常的に外出の機会を持っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額はもっている方もいる。持っていない方も、外出時には使えるように本人に渡している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつも自由に行っている。出来ない部分は職員が手伝っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外の景色を眺めやすいように、食堂の食卓やソファの位置に配慮している。カーテンなどで光を調整し、ホーム内にはなるべく季節の花々を飾るように心がけている。	食事のスペースから庭先の畑や遠く山々が見え、落ち着いて食事が取れる様に工夫している。また、自室入口には、地域の小学生が描いてくれた似顔絵が飾られており、その人らしさをかもし出し、ホーム内のあちこちには庭で取れた花が飾られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いたり、居間は座卓を置いたり、玄関先には机や椅子を置くなどしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や入居者と相談し、馴染みの物や大切な物(家具、仏壇、等)を自由に持ち込んでいただいている。	本人の身体状況にあわせ、利用者が落ち着いて生活が出来るように家族写真を飾ったりしている。馴染みの物や大切な物は、利用者の家族と相談しながら自由に持ち込んでいる。部屋には炭俵が何気なく置かれ、消臭の役目をしており、気持ちよく過ごせる工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせ、できるだけ手すり等の活用や、移動用具の活用、滑り止めマットの活用などを行っている。		